

第 121 号
2019.2 発行

総研大

NEWSLETTER



年頭挨拶

総研大 Topic

平成 30 年度附属図書館職員研修会 / 分子科学研究所一般公開 2018 / 創立 30 周年記念シンポジウム
創立 30 周年記念式典・祝賀会 / 平成 30 年度永年勤続者表彰式 / 第 1 回 UST-SOKENDAI 合同会議
KEK スチューデント・デイ / 学術資料マネジメントプログラム「アーカイブズ学」/ JANET フォーラム
日本文学研究専攻 中間報告論文発表会 / 総研大文化フォーラム 2018 / アジア冬の学校 2018
SD 講演会・ワークショップ

各研究科・専攻の入試関連イベント

統計科学専攻平成 30 年度第 2 回大学院説明会 / 核融合科学専攻平成 30 年度第 2 回大学院入試説明会
生命共生体進化学専攻 オープンキャンパス

受賞情報 / プレスリリース / メディア等出演・掲載情報 / イベント情報 / お知らせ

S O K E N D A I

年頭のご挨拶、2019年

総合研究大学院大学

学長 長谷川真理子

明けましておめでとうございます。今年はいノシシ年ですね。13年前に私が先導研に赴任して1年経った2007年の1月4日、賀詞交換会で、「今年はいノシシ年」などと話し合ったことを覚えています。あれから12年が経ちました。

一昨年の4月に学長に就任し、新執行部体制で大学運営を進めてきました。昨年の年頭挨拶で、「ローラーコースターのような1年だった」と述べましたが、その後も引き続きローラーコースター状態だったように思います。

昨年4月には、田町の東工大キャンパスイノベーションセンターの4階に、総研大東京ランチを開設しました。狭いスペースではありますが、機動性が増し、いろいろな会議や打ち合わせの利便性も増したと思います。また、総研大の新しいロゴ作りを博報堂にお願いし、本学の理念と構成にそったイメージのデザインをいただきました。昨年は、本学の設立30周年でしたので、11月初めに記念シンポジウムを行い、そこで、新ロゴのお披露目も行いました。記念シンポジウムは、高校生を含む多くの方々にご参加いただき、盛況のうちに終わることができました。準備にご尽力いただきました皆様に感謝いたします。と、どんどん進むのはいいけれど、転ばないように注意していきましょう。

昨年は、第四期中期目標・中期計画期間に向けて、これから何をどのように動かしていくか、全基盤機関の長の方々と面談し、総研大の今後のあり方について展望をおうかがいしました。総研大という複雑な組織のどこが難しいのか、どこをどのように直したらよいか、また、この特殊性を活かして、ほかではできない教育をするには何をしたらよいか、だんだんに重要な点が見えてきたように思います。

今年もたくさんの難しい問題が出てくるとは思いますが、問題を解決するということには、楽しい側面もあります。互いに意見を交換し、アイデアをぶつけ合い、ポジティブ思考で前に進んでいきましょう。

本年も、みなさまが健康で、楽しくて意義ある職場だと感じていただけるよう努力していきます。今年も一年、実り多い年でありますように。

10/12

平成30年度附属図書館職員研修会を開催

平成30年10月12日（金）、葉山キャンパスにおいて、平成30年度附属図書館職員研修会が開催されました。今年度は、TV 会議システムでの参加も含めて、附属図書館を構成する各基盤機関の図書館・図書室の担当教職員34名の参加がありました。

研修会では、中村附属図書館長事務取扱からの開会の挨拶に続き、意見交換会が開かれました。予算削減への対応策や電子ジャーナルについての問題などの議題について、各キャンパスからの現状報告のあと、活発な質疑応答が行われました。

また、神奈川大学の中村壽宏教授をお招きして講演会が開かれ、「著作権法改正が大学教育に与える影響—その理論と現実および著作権法改正の動向」と題して、平成31年に改正される著作権法がどのように大学や図書館に影響を与えるかお話いただきました。図書館職員にとっては常に身近な問題である著作権法についてもわかりやすくお話いただき、改めて著作権法を念頭に業務にあたることの重要性を学ぶ機会となりました。

異なる各専攻分野の図書館（室）の状況について情報交換を行い、新しく着任したメンバーも交え、顔をあわせることのできる貴重な機会となりました。また総研大附属図書館として、これからの在り方を考える機会にもなったのではないかと思います。【**学術情報基盤事務室 図書係（附属図書館）**】



研修会場の様子



中村壽宏教授（神奈川大学）

3年に一度の大イベント、分子科学研究所一般公開を2018年10月20日(土)に開催しました。今回は「分子の謎解き大迷宮～君は分子研を脱出できるか?!～」をテーマとし、分子研の各施設や研究室の公開、研究紹介、実験体験、クイズ大会(分子研王選手権)、市民公開講座等を行いました。最前線で日々奮闘する分子研の研究者が直接、研究の現場と最新の成果を市民の皆様を紹介する絶好の機会です。事前の積極的な広報活動が功を奏し(チラシが非常に有効でした)、今回はこれまでにない多数の皆様(市民公開講座のみの参加者を除き3,878名)にご参加頂きました。

今回の一般公開では、これまでにない初めての試みをいくつか行いました。まず、以前は各研究グループ単位で行っていた研究紹介、実験体験のブースを領域ごとに整理し、「理論計算の部屋」、「光の部屋」、「物質・エネルギーの部屋」、「生命の部屋」の4つとしました。また、岡崎高校スーパーサイエンス部の生徒の皆さんが取り組んでいる研究の成果を発表して頂きました。岡崎高校の皆さんには、今回初めて開催したクイズ大会の当日運営にも協力して頂きました。さらに岡崎市役所の協力のもと、岡崎グッズ売り場の出店、およびペーパークラフトの提供を行って頂きました。昨年に続き、オカザえもんも駆けつけて盛り上げてくれました。これまでにない、市民参加型の一般公開になったと思います。

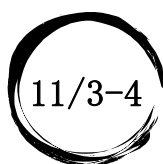


市民公開講座では、家戸敬太郎先生(近畿大学水産研究所教授)をお招きしご講演頂きました。「海を耕す!近大マグロの完全養殖と最新の育種研究・ゲノム編集」というタイトルで、ハマチの網生簀(あみいけす)養殖技術の開発からクロマグロの完全養殖に至るまでの研究の歴史、50年以上かけて品種改良した成長の早いマダイ、最新のゲノム編集技術を用いて作られたマッスルマダイについて、大変わかりやすく解説して頂きました。参加者からの質問も非常に活発で、予定時間を30分近く超過した白熱した講演会となりました。

今回の一般公開で私は、実行委員長を務めさせて頂きました。当日はずっと本部に詰めていたため、大盛況ぶりを肌で実感できなかつたのが少し残念でしたが、大きなトラブルもなく無事に終えることがで

き大変嬉しく思います。事前の準備や当日の運営にご協力頂いた皆様、企画、運営に携って頂いた実行委員会メンバーの皆様、心より感謝申し上げます。他方、参加者の皆様、運営側の皆様からのアンケートでは、より改善すべき課題もいくつかご指摘頂きました。皆様に一般公開をさらに楽しんで頂けるよう、次の実行委員会にきっちりと申し送りをさせていただきます。

【物理科学研究科 機能分子科学専攻・教授 飯野亮太】



11/3-4 創立30周年記念シンポジウムを開催



ロバート・キャンベル 教授 (上)、
広井良典 教授 (京都大学) (下)

平成30年11月3日(土)～4日(日)に、総研大創立30周年記念シンポジウムが、東京大学駒場キャンパスKOMCEE East に於いて開催されました。シンポジウムのテーマは、「人類はどこへ向かうのか ～好奇心と社会倫理～」と題され、総研大を構成する専攻から教員が講演を行い、最先端の研究の一部が紹介されました。このテーマになった理由ですが、総研大が創立された当時は、日本はバブル経済期であり、国策としての科学技術が推進されていた時代であったという背景がまずあります。しかし、その後バブルは崩壊し、一方で、深刻化する地球環境問題は、科学が目指すべき社会がすでにその在り方を変えていることを私たちに伝えております。このような状況を背景とし、社会から求められる基礎研究のあり方と未来への影響を、参加者の方たちと共に考えることを目的とし、本シンポジウムは開催されました。そのため、未来社会を担う高校生を中心とした若い世代に出席依頼を行いました。

1日目は、研究の原動力である「好奇心」を中心に、その好奇心の向かう先である科学技術の未来を提示する目的で、

「宇宙・物質の起源」、「南極の生態系」、「アストロバイオロジー」、「人工太陽」、「天体探査」の講演とパネルディスカッションが行われました。2日目は、人類社会の向かう先を「社会倫理」から考えることを目的とし、「人工知能」、「脳科学」、「人間文化」、「社会的記憶と文明」、「ポスト成長社会のデザイン」の講演とパネルディスカッションが行われました。

1日目、2日目ともに、250席ほぼ満席であり、特に高校生や大学生からの積極的な質問が寄せられました。講演者が講演後に高校生に囲まれて質問攻めに合うという光景もあり、未来の科学と人類社会の向かう先に対する関心の高さが伺われました。未来(未だ来ず)に対する不確実性・不安、相反する形で多少の安堵感等とともに、研究の一端を担う者としての責務の重さ、研究者を育成する大学としての在り方を考えさせられたシンポジウムであり、事業としては大成功で終了いたしました。

シンポジウム詳細はこちらを参照 ▶ <https://www.soken.ac.jp/pr/pr/30th/index.html>

【企画室・特任准教授 西中美和】

11/3

創立30周年記念式典・祝賀会を開催

平成30年11月3日(土)、総研大創立30周年記念シンポジウム1日目終了後、30周年記念式典及び祝賀会が開催されました。学長式辞、新ブランドロゴのお披露目に引き続き、祝辞(柴山昌彦文部科学大臣(代理:淵上孝国立大学法人支援課長)、元経営協議会学外委員の郷通子名古屋大学理事及び藤井良一情報・システム研究機構長)、乾杯(小平桂一第3代学長)がなされ、盛況のうちに終わりました。

【総合企画課 広報社会連携係】



長谷川学長による式辞

11/6

平成30年度永年勤続者表彰式を挙

平成30年11月6日(火)、葉山キャンパスの学長室において永年勤続者表彰式を挙りました。これは、「職員の永年勤続者表彰に関する規則」に基づき、永年誠実に勤務し、その成績が優秀で他の模範となる教職員を表彰するもので、平成30年度は勤続20周年を迎えた2名が表彰されました。

式では、長谷川学長から一人一人に表彰状と記念品が授与され、これまでの尽力に対する感謝の意が表せられました。引き続き、記念写真の撮影が行われ、和やかなうちに終了しました。【総務課人事係】



11/8

第1回 UST-SOKENDAI 合同会議を開催

平成30年11月8日(木)、韓国ソウルにて第1回 UST-SOKENDAI ジョイントミーティングを開催し、本学から長谷川学長、永田理事・副学長、小川理事、事務職員3名、University of Science and Technology(科学技術聯合大学院大学校、以下 UST)からは Kil Choo MOON 学長を含む28名が出席しました。

ジョイントミーティングは Moon 学長、長谷川眞理子学長の挨拶から始まり、第一部「15/30周年：教育成果と戦略的中・長期計画」(Kapdong PARK 理事/長谷川眞理子学長)、第二部「組織構造と大学本部の役割」(Byung Yoon SONG 部長/永田敬理事・副学長)、第三部「広報活動を中心とした学生募集」(Se Joong KIM 助教/小川雄二郎理事)では、それぞれのテーマについて各大学の代表者がプレゼンテーションを行いました。テーマごとに行なわれた質疑応答では活発な意見交換がなされ、互いの大学について理解を深める有意義な時間となりました。



質疑に答える長谷川学長

UST とは 13 年の交流が続いておりますが、今年は総研大が創立 30 年、UST が創立 15 年と、それぞれが節目の年を迎え、ジョイントミーティングという新しい形での交流をスタートしました。2019 年には総研大がホストとして第 2 回目が開催される予定です。【総合企画課 東京ランチ事務係】



前列最左が Park 理事、
前列左 3 人目から小川理事、永田理事・副学長、長谷川学長、Moon 学長



KEK スチューデント・デイ

高エネルギー加速器科学研究科の基盤機関である高エネルギー加速器研究機構 (KEK) つくばキャンパスにおいて、平成 30 年 11 月 13 日 (火)、第 5 回「KEK スチューデント・デイ」が開催されました。この催しは、総研大・高エネルギー加速器科学研究科所属の学生をはじめ KEK で学ぶ連携大学院の大学院生、特別共同利用研究員などが年に一度、一堂に会して日頃の研究成果を発表するものです。参加学生は、それぞれの割り当て時間にポスター発表を行うだけでなく、自由に他の参加者の発表を見て回り、発

表者との議論を行います。そのため、分野の異なる学生同士の貴重な交流機会でもあります。また、学生だけではなく機構の教職員も参加します。今年度の KEK スチューデント・デイには、学生・教員等合わせて約 130 名の参加があり、さらに今年は機構外の研究者も会場を訪れておりました。そのうち、総勢 93 名の学生がポスター発表を行い、また 3 名の代表学生による口頭発表が行われ、質疑応答や意見交換が盛んに行われました。

また、この機会に合わせ、参加学生向けに情報セキュリティ講演も行われております。ポスター発表終了後、参加者全員の投票により優秀なポスター発表者 3 名が選ばれ、教育担当の岡田安弘理事より KEK スチューデント・デイ機構長賞が授与されました。表彰式の後には懇親会が開かれ、普段の研究グループ単位での活動ではなかなか交流機会のない学生同士が、打ち解けて談笑する姿があちこちで見られました。学生たちの更なる飛躍が期待されます。【高エネルギー加速器科学研究科】



表彰式後の集合写真



学術資料マネジメントプログラム「アーカイブズ学」を実施

11月12日（月）から17日（土）までの6日間、鶴岡市郷土資料館（山形）において、学術資料マネジメントプログラム「アーカイブズ学」が開講されました。

当講義は国文学研究資料館（立川）が主催のアーカイブズ・カレッジ（史料管理学研修会）短期コースと共同の開催で、学芸員や民間のアーキビストなど、全国から計41名が参加し、文化科学研究科からは比較文化学専攻の学生1名が参加しました。

「アーカイブズ学」ではアーカイブズ（記録史料）の収集・整理・保存・利用に関する最新の知識や技術の普及に努めており、総研大（日本文学研究専攻）の教員6名、協力の講師6名の講義や実習が行われました。受講者たちは多様な分野でアーカイブに関わる先生方の講義に熱心に聞き入っていたほか、和紙の修復等の実習にも取り組み、充実した講義となりました。【日本文学研究専攻】



渡辺教授による講義の様子



修復の様子を熱心に観察する受講者たち

11/22
-23

JANETフォーラムに出席

平成30年11月22日（木）から23日（金）にかけて JANET フォーラムがリヨンの INSA Lyon（フランス国立応用科学院リヨン校）で開催され、総研大から中村理事、磯川広報社会連携係長と3名で参加しました。JANETとは、Japan Academic Network in Europeの略で、欧州に拠点を持つ日本の28大学機関により、年に1回集まっているネットワークのことです。JANETはまだ出来て3年という若いネットワークであり、総研大からフォーラムへは初参加となりました。現在、総研大は海外拠点を持っていませんが、欧州内で活動を展開している機関として、メンバーに加わっています。

フォーラムでは、“Networking and Collaboration for the Future”というテーマのもと、2つのセッションが行われ、フランスにおいて活動する大学の事例紹介や、フランスの高等教育研究政策及び日欧の共同研究のための支援プログラムの紹介が行われました。また、ディスカッションにおいては、コチュテル（博士論文共同指導）や、ダブル・ディグリー・プログラム（複数学位制度）等、現在日本でも盛んになっている海外の大学との教育制度について、フロアからも多くの質問や意見が出ました。

JANET フォーラムで各大学が構築したネットワークや新しいアイデアを、日本に持ち帰って大学毎にうまく活用していけば、総研大が創立以来掲げてきた「国際的な通用性」という教育目標を達成していく大きな力になると考えています。【企画室・講師 眞山聡】

11/20

日本文学研究専攻 中間報告論文発表会の開催

日本文学研究専攻では、博士論文審査に向けた段階的指導の中で中間報告論文の審査を行っており、毎年11月に中間報告論文研究発表会を行っています。今年度は11月20日（火）に開催し、在学生2名、研究生1名が発表を行いました。

研究発表では、和歌や絵手本作品、啓蒙書籍に関する研究成果が発表され、指導教員をはじめとする日

本文学研究専攻の教員からは多くの質問がなされました。発表した学生にとっては、博士論文執筆に向けての大きな布石となったことと思います。教員との議論の中で明らかとなった今後の課題についての検討を深め、研究がより充実したものとなることを期待します。【日本文学研究専攻】



日文専の発表者たち



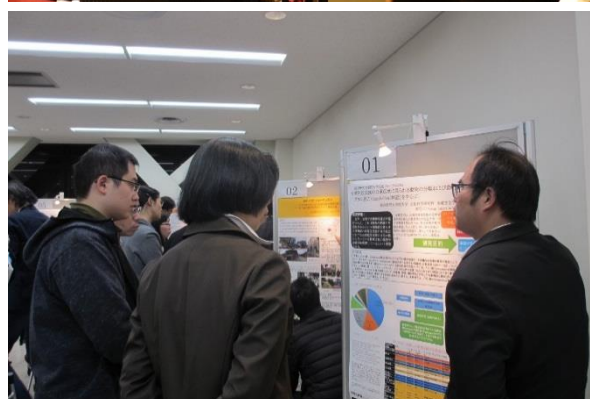
総研大文化フォーラム2018を開催

2018年11月23日(金)から24日(土)の2日間にわたって、国立民族学博物館(民博)を会場に、総研大文化フォーラムが開催されました。

本年度のテーマは、「知をわかち、ひとをつなぐ——研究成果の共有と還元」でした。わたしたちが日々邁進する研究は、一見して個人的で孤独な営みのように思われますが、その実、社会全体に支えられている協働作業に他ならず、研究成果は個人のものであるとともに、社会全体のものであるともいえます。したがって、研究成果を広く共有し、還元することが、わたしたち研究者には求められています。今年度の文化フォーラムでは、それぞれの学問領域において、どのように研究成果を共有し、還元する実践がなされているのか、また今後どのような可能性があるのか考えることを目的に、学生企画委員がプログラムを構成しました。

文化フォーラムの冒頭を飾ったのは、吉田憲司民博館長による「フォーラムとしてのミュージアム、フォーラムとしての学術研究」と題した基調講演でした。会場である民博のフォーラム型情報ミュージアムとしての

取り組みは、今年度のテーマの基礎にもなっています。続いて、4セッション計10名の発表者による口頭発表、9名の発表者によるポスター発表が行われました。今年度は例年に比べ口頭発表者が多く、座長の先生方によるサポートのもと、専門分野を横断した多角的な議論に、会場は盛り上がりを見せました。



上) 開会式の様子写真

下) 盛り上がるポスター発表での議論



特別展示場ツアーの様子

二日目は午前中に口頭発表のセッションを2つ終えたあと、午後からは日高真吾准教授による解説のもと、民博特別展のツアーが実施されました。また、文化フォーラムの最後は、本年度のテーマに関連したシンポジウム「ひろがる知、つながるひとの輪」で締めくくられました。各基盤機関から、青木睦准教授、福岡正太准教授、瀧井一博教授、野林厚志教授にご登壇頂きました。どのご報告もご自身の研究成果を踏まえ、研究者としていかにそれを還元するのか、具体的な事例を挙げて頂き、学生にとっては今後の研究活動のモデルとして、また教員にとっては普段聞くことのない他の機関での活動を知る機会となりました。

今年度の文化フォーラムは、一昨年から引き続き、全学事業として行われています。専門分野や所属機関を問わず、また学生、教員という立場を問わず、同じ研究者として議論する場は、多様な研究機関を擁する総研大ならではのものであり、重要な機会であるといえます。計69名を数える多くの参加者に恵まれ、盛会に幕を閉じられたことに感謝申し上げます。【学生企画委員長 松永千紗】



12/19

アジア冬の学校2018（分子科学研究所）

総研大「アジア冬の学校」が、平成30年12月19日（水）分子科学研究所明大寺地区において開催されました。総研大「アジア冬の学校」は、物理科学研究科内の5専攻で行っている研究・教育活動をアジア諸国の大学院生及び若手研究者の育成に広く供するために平成16年度に始まりました。分子研国際インターンシッププログラムで受け入れているインターンシップ生を中心に、海外から2名、所内から9名、合計17名の参加がありました。

「分子科学、新分野への挑戦」をテーマに、江原正博教授、飯野亮太教授、榎山儀恵准教授をお招きして、様々な観点から分かりやすく分子科学の基礎から最先端までの研究が紹介されました。さらに、インターンシップ生のフラッシュトークによる自己紹介、総研大生9名を加えたポスター発表が行われ、各々の研究に関して活発な議論が行われました。また、普段交流の機会の少ない、所内教員、および学生とインターンシップ生の間で十分な交流がなされ、大変盛況でした。

講義とポスター発表を通して、分子科学の基礎から最先端の研究成果まで学ぶ十分な機会が得られたと思います。講師の先生方には深く感謝申し上げます。また、本学校を開催するにあたり、分子科学研究所の担当職員の方々、秘書、学生をはじめ、多くの方々にご協力を頂きました。この場をお借り致しまして厚く御礼申し上げます。【物理科学研究科 機能分子科学専攻・准教授 西村勝之】



12/21

SD 講演会・ワークショップを開催

平成30年12月21日に、葉山本部において「職員の資質・能力向上に向けた研修」を実施しました。2016年に大学設置基準の一部が改訂され、全ての大学においてSDが義務化にされたことに伴い、本学においてもSD計画を策定し、今年度よりワーキンググループによるOJTを行う等、職員のスキルアップを図っておりますが、今回は山形大学・北海道大学等で豊富なSD実践経験を有する山崎淳一郎氏（北海道大学産学・地域協働推進機構 教授）を講師にお迎えし、講演会とワークショップ形式の2部構成による研修を行いました。

午前に行われた第一部では、「研修転移 Transfer of Training ～職員の行動変容と組織の改革をもたらすFD・SD～」と題し、山形大学や様々な機関でのSDの実例を踏まえ、職員による大学改革や職員の意識改革等の意義及び重要性について講演が行われました。午後に行われた第2部では「Evaluation ワークショップ：総合研究大学院大学のリスク評価および戦略計画をつくってみよう！」と題したワークショップを行いました。ワークショップではグループごとに参加者が総研大に関する問題・課題等の意識を共



山崎淳一郎教授（北海道大学）

有し、各課題解決についてディスカッションを行い、解決案をまとめて発表しました。ワークショップ開始前のアイスブレイクとして「マシュマロチャレンジ」というゲームを行う事により、普段職務上の関連が無い職員同士が、ゲームを通じてコミュニケーションを取ることで打ち解け、その後のプログラムを活発に行う事ができました。

また各グループともに短時間で議論をまとめ、すばらしい内容の発表を行いました。それに対する質問や指摘も鋭く、核心を突くものであり、研修を通じて総研大の職員力の高さを確認することが出来ました。【企画室 柳生修二】



マシュマロチャレンジの様子

各研究科・専攻の入試関連イベント



11/2

統計科学専攻 平成30年度第2回大学院説明会を開催

平成30年11月2日(金)に、統計数理研究所(立川)において、統計科学専攻大学院説明会を開催しました。

6月15日(金)に開催した第1回(参加者36名)に続く本年度2回目の開催で、28名の参加者がありました。これは昨年度同時期の参加者の2倍です。「ビッグデータ」「データサイエンティスト」などという言葉をよく耳にしますが、「統計」の需要が高まっていることを実感する数字でした。



質疑応答の様子

説明会は大きく「全体説明」と「教員との面談」に分かれています。全体説明の内容は「専攻長挨拶(統計科学専攻の概要)」「本年度の入試ガイダンス」「カリキュラムの説明および修了後の進路紹介」「学生による学生生活と研究テーマの紹介」などで、質疑応答も活発に行われました。また全体説明終了後には、21名が教員と面談しました。面談希望者の数も年々増加しています。【統計科学専攻】



核融合科学専攻

平成30年度第2回大学院入試説明会を開催

平成30年11月5日(月)に核融合科学専攻平成30年度第2回大学院入試説明会を開催しました。参加者は2名で、うち1名は修士課程2年生、もう1名は学部4年生でした。本説明会は、実際の研究で用いられる装置や機器に身近に接しながら研究者の説明を受けることで核融合研究の最前線を実感していただき、核融合科学専攻への入学の契機となってもらえるようにと企画されています。

参加者と総研大教員らが会議室に集合後、説明会が始まり、まず始めに、参加者に対して榊原悟副専攻長から挨拶と総研大核融合科学専攻における研究内容についての説明を行いました。ここでは、核融合研究は幅広い分野領域の研究が集まって行われる研究であり、参加学生の興味ある分野が含まれていることなどを説明しました。

次に、施設見学を行いました。まず大型ヘリカル装置(LHD)を用いたプラズマ実験に関わる施設として、制御棟制御室を見学しました。制御室内に設置されている大型スクリーンに投影されたプラズマの映像を見ながら、プラズマ実験に関する説明を行いました。その後、大型ヘリカル実験棟の本体室に入室し、LHDの詳細な説明を行いました。間近に見るLHDの規模の大きさに、参加学生らは驚きと興奮の様子で見入っていました。次に、低温工学や超伝導工学に関する施設である超伝導マグネット研究棟を訪れ、ここでは、LHDのヘリカルコイルやポロイダルコイルに用いられている超伝導体、並びに将来に向けた高温超伝導体の開発に関する研究の説明を行いました。次いで、総合工学実験棟にて、ダイバータ研究やブランケット研究などに関わる炉工学や、プラズマ基礎に関する説明を行いました。最後に、理論シミュレーションに関する研究として、スーパーコンピュータやバーチャルリアリティー装置の見学を行いました。

施設見学後、会議室に戻り、総研大核融合科学専攻の入学試験要項や入学後の学生生活に関することなどの説明後、教員との面談・自由懇談を実施し、3時間40分にわたる入試説明会が終了しました。この説明会を通じて、参加学生の皆さんに核融合科学研究に興味を持っていただき、核融合科学専攻への入学につながることを期待しております。【物理科学研究科 核融合科学専攻・助教 成嶋 吉朗】





生命共生体進化学専攻 オープンキャンパスを開催

生命共生体進化学専攻は、葉山キャンパスにおいて毎年2回オープンキャンパスを実施しており、1月11日（金）に本年度2回目を開催しました。当日は遠方からもお越しいただき、8名が参加しました。

佐々木研究科長による「総研大と全学事業の紹介」、「生命共生体進化学専攻の概要説明」に続き、専攻5分野の研究内容紹介では各研究室や実験室を回り、直接教員や研究員から研究の説明を聞く機会を設けました。また、ポスター説明会・情報交換会では、教員や学生、研究員との懇談がもたれ、大学院での研究や学生生活のことなどを和気藹々と歓談していました。

参加者からは「とても分かりやすく、丁寧な見学ツアーありがとうございました！おかげで進路が決まりそうです。」「情報交換会では多くの先生や院生さんからとても有益なアドバイスをいただき今後の指針が固まりそうです。」等の感想が聞かれ、大変好評をいただきました。【先導科学研究科事務係】



ヒトの集団意思決定の正確さに関する理論研究について説明する伊藤研究員（理論生物学分野）



沓掛講師の進化行動生態学に関する研究についての説明に熱心に聞き入る参加者

【プログラム概要】

- ・ 総研大と全学事業の紹介
- ・ 生命共生体進化学専攻の概要説明
- ・ カリキュラム・入試に関する説明
- ・ 研究内容紹介
- ・ ラボ見学ツアー
- ・ ポスター説明 & 情報交換会

受賞情報

■ 先導科学研究科 徳山 奈帆子さん（日本学術振興会特別研究員）

第35回「井上研究奨励賞」を受賞

【タイトル】 ボノボの父系社会におけるメスの凝集性と親和関係

【URL】 <http://www.inoue-zaidan.or.jp/b-01.html?eid=00036>

■ 核融合科学専攻 沼波 政倫 准教授

「AAPPS-DPP Akira Hasegawa Poster Prize」を受賞

【受賞のコメント】この度は名誉ある賞を頂き、大変光栄です。これを励みに今後もプラズマ乱流の物理に突き進んで参ります。

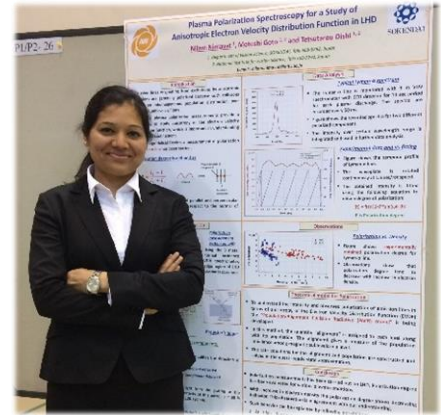
【URL】 <http://aappsdp.org/AAPPSDPPF/posteraward.html>

■ 核融合科学専攻 Nilam Nimavat さん (D5)

第9回日韓セミナー「ポスター賞」を受賞

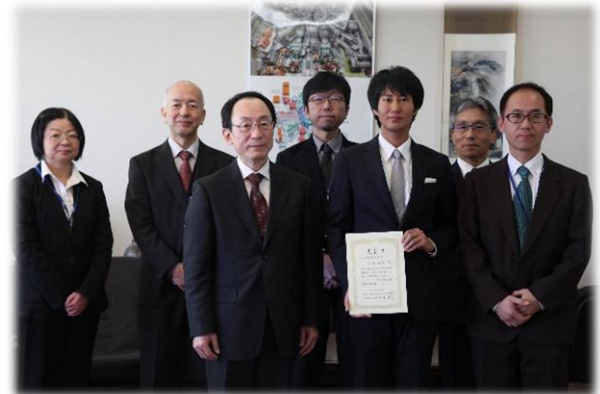
【受賞のコメント】The research on Lyman-alpha polarization in the Large Helical Device was awarded. I thank my professors for guiding and inspiring me to carry out this work.

(大型ヘリカル装置におけるライマン α 分極に関する研究で受賞しました。研究を進めるにあたり、励まし、ご指導くださった先生方に感謝いたします。)



■ 核融合科学専攻 松永 信之介 さん「第1回 核融合科学研究所学生優秀発表賞」を受賞

【受賞のコメント】優秀発表賞に選んでいただき光栄です。題材は核融合炉用超伝導コイルに関するもので、導体を低融点金属で含浸するという新しいアイデアのマグネットを試作しました。この研究はNIFS炉設計加速チームの先生方からサポートをいただき実施されました。ご指導に対して厚く感謝申し上げます。



■ 日本文学研究専攻 古明地 樹 さん

全国大学国語国文学会 第118回大会「研究発表奨励賞」を受賞



【受賞のコメント】この度は全国大学国語国文学会「研究発表奨励賞」をいただき、大変光栄なものと存じます。ご指導下さいました先生方に心より感謝申し上げます。絵と文学の関係を問う研究には、未だ多くの問いが残っています。新たな発見を目指し、また、頂いた賞に恥じぬよう邁進してまいります。

【発表タイトル】「橘守国の絵手本作品における和漢分類意識—レイアウトを起点に—」

【URL】 <http://www.nacos.com/kokubun/taikai.html>

プレスリリース情報



北海道新聞(2018年12月24日)に掲載されました!

2018.12.4

繁殖していないペアほど息の合ったダンスを踊る： タンチョウから定説を覆す発見

【研究概要】二個体が息を合わせて踊るダンスは、ヒトのみならず、その他の動物においてもみられます。動物において、雌雄のペア（つがい）がダンスを踊ることが多いため、洗練されたダンスはつがいの絆を強め、繁殖を促進すると長らく考えられてきました。本研究は、野生タンチョウのダンス（いわゆる、鶴の舞）を詳細に分析し、この定説が正しいかどうかを実証的に検証しました。その結果、これまでに繁殖していないつがいほど、息の合ったダンスを踊るという定説を覆す結果が得られました。本研究は、つがいが踊るダンスの役割を示した世界で初めて研究であり、ヒトが行う複雑なコミュニケーションを理解する上での手がかりにもなるかもしれません。

【論文情報】 Takeda KF, Hiraiwa-Hasegawa M, Kutsukake N. in press. Uncoordinated dances associated with high reproductive success in a crane. *Behavioral Ecology*. (ツルでは協調していないダンスが高い繁殖成功と関連している、行動生態学誌) [DOI : 10.1093/beheco/ary159](https://doi.org/10.1093/beheco/ary159)

【著者】武田浩平（総合研究大学院大学・先導科学研究科・特別研究員）、長谷川眞理子（総合研究大学院大学・先導科学研究科・教授、現・学長）、沓掛展之（総合研究大学院大学・先導科学研究科・講師）

【URL】 <https://www.soken.ac.jp/news/5977/>



タンチョウのペアダンス

2019.1.17

ハダカデバネズミは尾を引っ張り、仲間の労働を妨害する： 集団的意思決定に背く行動の発見

【研究概要】人間社会では、他人の邪魔をすることを「足を引っ張る」と表現します（しかし、実際に足を掴んで引っ張ることは稀です）。それでは、ヒト以外の動物でも、他個体を邪魔する行動は見られるのでしょうか？ 本研究では、真社会性という複雑な社会を形成する哺乳類ハダカデバネズミが、他個体の尻尾を咥えて後方に引きずり労働の妨害をすること、また、この行動には、妨害した個体が労働を独占している機能があることが分かりました。アリやハチに代表されるように、真社会性社会を形成する種は、コロニー全体の利益のために自己を犠牲にする利他行動を進化させています。このように高い社会的秩

序を持つ種においても、仲間の「足を引っ張る」、妨害行動の存在と機能が世界で初めて明らかになりました。

【論文情報】

Kutsukake, N., Inada, M., Sakamoto, S. H., Okanoya, K. Behavioural interference in work among eusocial naked mole-rats. *Journal of Ethology* (真社会性ハダカデバネズミにおける労働行動の妨害)

DOI: [10.1007/s10164-018-0581-9](https://doi.org/10.1007/s10164-018-0581-9)

【著者】

沓掛展之（総合研究大学院大学・先導科学研究科・講師；研究遂行時、理化学研究所・脳科学総合研究センター・基礎科学特別研究員）、稲田正幸（研究遂行時、理化学研究所・脳科学総合研究センター・研究補助員）、坂本信介（宮崎大学・農学部・講師）、岡ノ谷一夫（東京大学・総合文化研究科・教授、理化学研究所・脳神経科学研究センター・認知行動連携研究チーム・チームリーダー；研究遂行時、理化学研究所・脳神経科学総合研究センター・認知行動連携研究チーム）

【URL】 <https://www.soken.ac.jp/news/6030/>



ハダカデバネズミ。門歯を使ってトンネルを掘り暮らしている。

2019.1.19

保護性が低い母親のコドモは他個体から接触を受けやすい：野生ニホンザルにおけるヒトに類似した現象の発見

【研究概要】親が目を離している際に、子供が予想外の事態に巻き込まれることは人間社会でよく起きます。子供が赤の他人から接触を受けることもその一つでしょう。私たちは、宮城県金華山に生息する野生ニホンザルを対象として3年間に及ぶ長期調査を行い、類似した現象の有無を調べました。その結果、野生ニホンザルにおいても、保護性が低い母親のコドモは他個体から接触を受けやすいことを、世界で初めて発見しました。他個体からの接触には、コドモにとって有益なものもあれば、手荒に扱われる乱暴なものもありました。このことから、母親がコドモから離れている、または注意を払っていないために、他個体からの接触を許容してしまっていると考えられます。

【論文情報】

Sekizawa M, Kutsukake, N. Maternal protectiveness is negatively associated with infant handling in wild Japanese macaques. *Behaviour* (野性ニホンザルにおいて保護性の高い母親のコドモは他個体から



金華山のニホンザル。母親以外の個体による infant handling

接触されにくい) [DOI:10.1163/1568539X-00003534](https://doi.org/10.1163/1568539X-00003534)

【著者】 関澤麻伊沙 (総合研究大学院大学・先導科学研究科・大学院生)、沓掛展之 (総合研究大学院大学・先導科学研究科・講師)

【URL】 <https://www.soken.ac.jp/news/6033/>

メディア等出演・掲載情報

- **日本経済新聞 夕刊「プロムナード」**
【掲載】 比較文化学専攻 廣瀬浩二郎 准教授
【日時】 毎週火曜日 日本経済新聞夕刊にて連載中
【URL】 <https://www.nikkei.com/article/DGKKZO36061840T01C18A0KNTF00/>
- **秋田さきがけ新聞 朝刊「カザフスタンの馬文化」**
【掲載】 地域文化学専攻 藤本透子 准教授
【日時】 2018年10月17日(水)
- **京都新聞など 大阪万博再び 私の視点②「企画、人類全体視野に」**
【掲載】 比較文化学専攻 吉田憲司 教授
【日時】 2018年12月3日(月)
- **読売新聞 朝刊「パコパンパ遺跡でアンデス文明最古級の人身供犠の証拠を発見」**
【掲載】 比較文化学専攻 関雄二 教授
【日時】 2019年1月9日(金)
- **広報誌「国立大学」 第51号「今、学生は！」**
【掲載】 先導科学研究科 清古貴さん
【日時】 2018年12月発行
【URL】 http://www.janu.jp/report/files/janu_vol51.pdf

Event Calendar イベント情報

日程	時間	イベント名称 (リンク)	実施専攻・基盤機関
2/7	10:30-16:40	統計科学専攻 学生研究発表会	統計科学専攻・ 統計数理研究所
2/21-5/7	10:00-17:00	企画展 「旅する楽器—南アジア、弦の響き」	国立民族学博物館 (寺田吉孝 教授)
2/22	13:30-17:30	核融合科学見学会 (核融合科学研究所) 開催	物理科学研究科 核融合科学専攻

日程	時間	イベント名称（リンク）	実施専攻・基盤機関
2/27-3/1		<u>総研大アジア冬の学校</u> <u>(国立天文台 三鷹キャンパス)</u>	物理科学研究科 天文学専攻
3/4-3/7		<u>総研大・国立天文台スプリングスクール</u> <u>(春の体験入学)</u>	物理科学研究科 天文学専攻
3/21-5/28	10:00-17:00	<u>特別展</u> <u>「子ども／おもちゃの博覧会」</u>	国立民族学博物館 (笹原亮二 教授)
3/22	18:30-20:30	公開講演会 「アンデス文明の起源を求めて—日本人研究 60 年の軌跡と展望」	国立民族学博物館 (関雄二 教授)
3/23	13:30-16:30	<u>第 35 回人文機構シンポジウム</u> <u>レクチャーコンサート「中東と日本を</u> <u>つなぐ音の道 (サウンドロード)</u> <u>—音楽から地球社会の共生を考える—</u>	人間文化研究機構 (西尾哲夫 教授)
4/20	13:00-16:00	<u>2019 年度大学院入試説明会</u> <u>大阪会場開催</u>	物理科学研究科 核融合科学専攻
4/23	13:00-16:00	<u>2019 年度大学院入試説明会</u> <u>東京会場開催</u>	物理科学研究科 核融合科学専攻
4/25	17:00-20:00	<u>2019 年度大学院入試説明会</u> <u>名古屋会場開催</u>	物理科学研究科 核融合科学専攻

※原則として、総研大専攻としての行事のみを掲載します。

お知らせ

■ 2019年度ニューズレターについて

2019年度は春、夏、秋、冬（5・8・11・2月）の4回に分けてニューズレターを発行します。回数は少なくなりますが、総研大内の情報共有の場として引き続きご活用ください。

■ 創立 30 周年記念寄附金事業について

創立 30 周年という節目の年に、本学の未来に向けて大きな飛躍の年とすべく、本学の国際化を推進に必要な支援事業を一層、積極的に進めるための寄附金事業を実施します。【企画室】

【URL】 <https://www.soken.ac.jp/disclosure/pr/donation/>

■ 総研大公式 Facebook <https://www.facebook.com/SOKENDAI/>



■ 編集後記

昨年は幸運にも出張先できれいな紅葉に出会う機会ができました。左は山梨大学のイチョウ、右は韓国ソウルで見た、燃えるように真っ赤なもみじです。気付けば紅葉を通り過ぎて冬真っ最中ではありますが、今回のニュースレターは文化の秋、真っ盛りの内容となっております。(若干、冬もまざっていますが・・・) 2019年度は、春・夏・秋・冬の4回に分けてニュースレターを発行する予定です。引き続き、皆様のご協力をよろしく願います。(広報社会連携係 C.A.)



広報社会連携係では、メディアを通じて総研大の研究成果を広く社会に発信しています。特に、総研大在学生在が筆頭著者として研究論文を出版する際、プレスリリースを行う場合は、総研大と所属専攻(基盤機関)との共同プレスリリースを行っておりますので、是非総研大広報社会連携係までご連絡ください。

各専攻の学生・担当教員の「メディア出演」、「受賞・表彰」および「地域社会と連携・密着したアウトリーチ活動等の社会連携・貢献活動」についてニュースレター、ウェブ掲載等により発信しておりますので、各種情報を是非お寄せください。

研究論文を投稿する場合や、メディア等に出演される場合は、「総合研究大学院大学」と表記いただきますよう、総研大の知名度向上にご協力をお願いいたします。

2019年2月発行

編集・発行

国立大学法人 総合研究大学院大学

総合企画課広報社会連携係

神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村)

TEL 046-858-1629

FAX 046-858-1648

Email kouhou1(at)ml.soken.ac.jp

※(at)は@に変換してください。

©2019 SOKENDAI